

「オタク」的自己の承認の場としてのメイドカフェ

——メイドへのインタビュー調査から——

甲南女子大学 池田太臣

1 目的

メイドカフェは、現在、オタク文化の重要な一要素として定着している。にもかかわらず、メイドカフェに関する研究や学術的な報告はわずかしかない。本報告は、大阪府大阪市浪速区日本橋にある、あるメイドカフェに焦点を当てて、メイドカフェで働く女性（メイド）たちがどのような動機でメイドとして働き、その労働にいかなる意味を見出しているかを明らかにすることを目的としている。

2 方法

本稿でとりあげるAカフェ（仮称）は、2005年より続く日本橋では“老舗”とあってよいメイドカフェである。このAカフェの現役メイドとして働く9名の女性（現在は辞めている者もいるが、インタビュー時点では現役だった）にインタビュー調査を行った。インタビューの内容は、メイドとして働いている女性たちが、どのような経緯で働き始めたのか、どのような文化的経験を持っているかなどである。

3 結果 ～メイドカフェでメイドとして働く理由

私のインタビュー結果から、“メイドカフェでメイドとして働く魅力”は、次の3点にまとめられる。すなわち、①オタク知識（マンガやアニメ、ゲーム、アイドルなどに関する知識）の活用と獲得、②ヴィジュアル的な魅力、③他者とのコミュニケーションの3つである。

メイドカフェにおいて、オタク知識は非常に役に立つ。オタク知識を活かして働ける場所、それがメイドカフェである。したがってメイドカフェは、オタクとしての自覚を持ち、オタク的な振る舞いを知っていることが、アドバンテージになる場所である。第二に、メイドという「かわいい服」を着ることができるとも魅力である。この点では、メイドカフェは、オタク文化と「カワイイ」との融合を可能にしている。

そして最後に、コミュニケーションの魅力も見逃せない。この場合のコミュニケーションには、2つの意味がある。まず、ひとつめは、客とメイドのコミュニケーションである。そしてもうひとつは、メイド同士のコミュニケーションである。メイド同士が友達になることによって、オタク仲間（社会関係資本）を獲得できるのである。

4.結論

オタクな女性たちが、メイドとして働くことを、私はファン活動の一つのスタイルとしてとらえたい。ジャネット・シュタイガーは、ファン活動の類型の一つとして、「ファンの偏愛の日常生活への拡張」を挙げる（Staiger 2005: 105）。女性たちの「メイドとして働く行為」は、ファンの偏愛の日常生活への拡張（アルバイトでも“オタク”）としてとらえることができる。そして、オタクとしてのアイデンティティを再確認し、肯定する行為となっているのである。その意味でメイドカフェは、「オタク」的自己の承認の場となっていると結論づけることができる。

【参考文献】

Staiger, Janet, 2005, *Media Reception Studies*, New York & London: New York University Press.